

「選択肢」と「多様性」は、これまでの論点の中で繰り返し出てきたキーワードであり、「新しい学校づくり」を考へていく中で、全体を貫くキーワードになると考へています。これまで行った各論点に係る意見交換の中で、「選択肢」と「多様性」（ニュアンスが近いもの含む）が提示されているものを再掲します。

論点1 教育環境の規模

- 子供の特性に合わせた学校の**選択肢**（小規模、大規模、小中一貫など）

論点2 それぞれの居場所

- 学校での活動、活動する主体は**多様**なので、活動に応じた**多様な居場所**を提供し、それぞれが居場所を**選択**できるようにする

論点3 地域とともに子供を育てる

- **多様な地域資源**を生かした、地域ごとの特色ある教育
- 学校は、「つながりを作る場所」として、**多様な主体が多様な形で交流**できる場

論点4 地域に開かれた学校

- 地域における学校のあり方や地域が学校に求める機能は、地域ごとの特性やニーズによって**様々**である。

論点5 デジタル化の進展と教育環境

- ICTの活用によって、**学習スタイルが多様化**し、**選択肢**が増えている
- **多様な学習スタイル**を支える、可変性の高い学習空間／**教室以外の学びの場の選択肢**

論点6 教育環境のマネジメント

- 学校に関わる人々もより**多様**となるべき（地域の関わりの強化、学生との協働など）

論点7 選択肢と多様性

- インクルーシブ教育をより充実させるには、**多様な子供の特性**に合わせた対応が必要